

トピックス

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS) は、2011年に初めて原因ウイルスが特定された新しいダニ媒介性疾患です。病原体は、ブニヤウイルス科フレボウイルス属のSFTSウイルスで、主な症状は血液中の血小板や白血球の減少、38度以上の発熱、吐き気、下痢等で、まれに重症化し死亡することもあります。

2009年に中国で血小板や白血球が減少する疾病が集団発生し、しばらくは原因不明でしたが、2011年にSFTSウイルスが特定されたことから、このウイルスによる感染症と判明しました。その後の調査で発生地域に生息するフタトゲチマダニ (写真) 等のマダニがSFTSウイルスを保有しており、人間にはウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染すると考えられています。このウイルスに感染した哺乳動物も見つかっています。

日本国内では、2013年1月に山口県で初めての患者が確認された後、愛媛県、宮崎県などでも相次いで確認されました。これらの患者に最近の海外渡航歴がなかったため、日本国内でウイルスに感染したと考えられています。また日本の患者血清から検出されたSFTSウイルスは、中国における分離株とは遺伝的に独立していることから、ウイルス自体は、初めて患者が確認された以前から国内に存在していたと考えられます。これまでのところ、長野県では患者の発生は確認されていません。

SFTSの治療としては、有効な抗ウイルス薬が無いことから、対症療法が主体となります。また、現在のところ有効なワクチンはありません。このため、マダニ等に咬まれないようにすることが最も大切な予防方法です。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが

効果的です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要です。

重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る) は感染症法の四類感染症に定められ、2013年3月4日以降、診断した医師は直ちに最寄りの保健所へ届け出ることが義務付けられました。当所では、2013年4月よりSFTSウイルス遺伝子検出の検査体制が整い、より迅速に対応できるようになりました。

これから、山や草むらに入る機会が多くなる時期ですが、十分に予防対策をしていただきたいと思います。

参考：厚生労働省ホームページ 重症熱性血小板減少症候群SFTS について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/sfts.html>

(内山友里恵 kanken-kansen@pref.nagano.lg.jp)



写真 フタトゲチマダニ
提供：国立感染症研究所昆虫医科学部